

2月に開催 ピティナ・イベントレポート

<レポート 1> ピティナ・ピアノステップ 『モーツァルト・ステップ』開催

2007.2.12(月・祝)角筈区民ホール

<レポート 2> 第30回ピティナ・ピアノコンペティション『王子賞受賞披露演奏会』

2007.2.11(日・祝)王子ホール

<レポート 3> 『ピティナ東京室内楽研修会』開催 レポート

2007.2.10(土)11(日)12(月・祝)エプタ・ザール

<レポート 1> ピティナ・ピアノステップ 『モーツァルト・ステップ』 開催

主催：ピティナ東京支部（後援：文部科学省）

2月12日(月)(10:30～19:00)新宿区立角筈区民ホールにて、63組の参加者が集い、オールモーツァルトによる『モーツァルト・ステップ』が華やかに開催された。ピティナ・ピアノステップは、ピアノ学習者のステップアップを目的としたステージで、1997年度創設され今年度10周年を迎えた。今年度は年間約350地区で開催、約30,000組が参加している。今回はモーツァルトだけをテーマとしたピアノステップ。



今回の『モーツァルト・ステップ』には、7才の小学生から77才の実年世代まで幅広い年齢層が参加した。趣味で学ぶ会社員、リサイタルを終えてかけつけたピアニスト(金子一朗氏)、歌、ヴァイオリン、カルテット、デュオとピアノのアンサンブルなど、様々なジャンルの人々が同じステージを共にした。ステージには、**モダンピアノ(Steinway)**と、**フォルテピアノ～ドゥルケン レプリカ(ノイペルト社製)**～の2台が置かれ、参加者は好きな楽器を選んで演奏。

またモーツァルトの第一人者、**海老澤 敏先生**をはじめ、古楽器演奏にも造詣の深い**小倉貴久子先生**、**久元祐子先生**がアドバイザーを務め、貴重なお話(講評)に会場全員が耳を傾けた。なお、参加者たちには、一人一人アドバイザーからの直筆の『ステップ・メッセージ』が送られている。

日常の練習やレッスンの延長線上に発表会の機会を設けることにより、ピアノ学習に一つの目標を持ち、生涯にわたって音楽を楽しむことを、ピティナ・ピアノステップでは応援している。



フォルテピアノノドゥルケン レプリカ(ノイペルト社製)

ノイペルトのレプリカは、1815年にルイ・ドゥルケンによって製作されたオリジナルに基づき作られています。この6オクターブ(F1-f4)のフォルテピアノの明るく多様な響きは、ドゥルケンの理想とした、モーツァルトの時代を思い描かせてくれます。

アドバイザーによる講評



小倉貴久子先生：内声というのは非常に重要なパート。しかもバス、なんです、通奏低音、あまり音楽の中で光をあびるパートではありませんけれど、そのバスをになう、ということは非常に重要です。”バスから音をもっていく”という考え方も、生き生きとした音楽作り、モーツァルトの本当に美しいのができるのではないのでしょうか。…(略)…古楽とモダン楽器の世界はとかく分離しがちですが、今回もしかしたら世界初？ともいえる、舞台上でフォルテピアノとモダンピアノ、どちらでも好きな方を弾いてよい、という企画で、焦点が“モーツァルト”、となったのではないのでしょうか。初めてフォルテピアノを触った方はびっくりしたことでしょう。モーツァルトを長年の人生の友にされて連弾された方など、人生の醍醐味を味わいました。

久元祐子先生：“モーツァルトを好きで受けた”というのを感じます。粗が目立つ、コンクールでは点をとりにくい…と、モーツァルトは避けられることも多いなか、こんなにたくさんの方々に参加されたことはすばらしいとおもいます。…(略)…モーツァルトには”素”の部分が出る。これほど少ない音符で人間のもっている感情を表現できた作曲家はいないでしょう。一生をかけてピアノ人生のなかでつきあっていく、そういう価値のある作曲家、だと思えます。今回は代わりばんこにフォルテピアノ、モダンピアノ(スタインウェイ)を聴けるめずらしい企画。フォルテピアノをさわった”記憶”をいかして、繊細な息づかい、微妙なタッチを普段のピアノ演奏でもいかしてください。





海老澤 敏先生:私は、「モーツァルトさん」といっているのですが、かれこれ半世紀以上もモーツァルトさんを聴いたり調べてきたりしているのですがモーツァルトさんに出会って 6～70 年。モーツァルトさんの演奏もだいぶ変わって来たように思います。1937 年(私の生まれた年ですが)、復元されたワルターのピアノで、モーツァルト当時の響きが新しく発見された。それから 60 年以上経って演奏もすっかり変わったように感じます。今のピアノも素敵に響くけれど、今のピアノとモーツァルトさんの時代はまったく違う、弾き方も違う。そういったことを意識したらよいか、と思います。また、モーツァルトさんの曲は、どんな曲でもひとつひとつ、「いわれ(理由)」があります。でもモーツァルトさんはほとんど語ってくれていない(記録がない)、しかし必ずある。なぜこんな響きで作ったのか？幸い私たちには、それを探ることは許されています。そのためには、その時代とか社会、考えていること、まわりの作曲家はどうだったか、そういったことを”考えて”。そうすることでもっと皆さんの演奏が輝くことでしょう。・・・(略)・・・モーツァルトさんの人生は35年、ですが、短いとは思いません。当時の寿命は短かった、モーツァルトさんは長生きだったともいえます。あれだけの作品を作曲することは、60年、いえ90年でも不可能な計算なのです。いま私たちはモーツァルトさんの全曲を聴くことができる、そういう作曲家もまれですし、歌う、弾く、聴くことができる魅力にとらえられる作曲かなのです。今日は皆さんに宿題を出します。モーツァルトにおけるドン・ブリクス(?)とは？

アドバイザーからの「ステップ・メッセージ」



コメントを読む、高尾奏之介さん(フリーJ:ピアノトリオ第4番 K.502 第3楽章およびフリーJ:幻想曲八短調 K.396 に出演。すでにピティナ・ピアノコンペティションF級金賞('05)の高尾さんは、花束のプレゼントをもらうなどすでに人気者。彼をお目当てに聴きにきたお客さんも多数。

継続表彰



フォルテ・ピアノでリハーサル



参加者のコメント

「トリオとソロ、楽しかったです。トリオは 2 回目だけれどこういう舞台でやるのは初めてだったので楽しかった。・・・(略)・・・(モーツァルトは)悩みとか悲しみとか表現しようと思いました。」(トリオとソロで参加 = 高尾奏之介)

「鹿児島でリサイタルをして、夜の最終便で東京にきました。夜も食べてなかったので寝るの遅くなったんですが」(沼光絵理佳)

「会社員です。まあ、1日に3,4時間くらい練習できています。」

「コンクールの本番に向けて、」

「ソルフェージュの先生のところ、モーツァルトのこういうのがあるってきいて、参加しました。(オペラ「羊飼いの王様」は)ええ、難しいです・・・(笑)今度は、ピアノでも受けてみます。」(ソプラノで参加 = 矢野真紀子)

「実は(海老澤先生とは)同じ中学校でした。60年ぶり、ですか。」(夫婦デュオで参加 = 金田真二 77才)



写真は、横浜でのサロンコンサートにピアニストとして出演後、モーツァルトステップに参加した金子一朗さん('05年ピティナ特級グランプリ)。すばらしい音色と演奏に、会場中が静まりかえり、終了後には盛大な拍手がおくられた。

王子賞受賞披露演奏会、開催



2007年2月11日(日・祝)、王子ホール(東京・銀座)にて、第30回ピティナ・ピアノコンペティション王子賞受賞披露演奏会が開催され、特級グランプリの前山仁美(19歳、ロシア・モスクワ音楽院在学中)をはじめ、同コンペティションG・特級の上位4名のピアニストによる演奏に、会場に詰め掛けた多くの聴衆から温かい拍手が送られた。当日の出演者プロフィールと演奏曲目は下記。

王子賞受賞披露演奏会とは？

株式会社王子ホールより、ピティナ・ピアノコンペティションG・特級の上位各2名(特級グランプリ、特級銀賞、G級金賞、G級銀賞)に2001年から毎年贈られている褒賞で、賞状・賞金のほか、王子ホールでのコンサート出演権が授与される。過去に、関本昌平(2003特級グランプリ、2005ショパン国際ピアノコンクール第4位)、須藤梨菜(2005福田靖子賞、2006ダブリン国際ピアノコンクール第5位)、田村響(2002特級グランプリ、2006出光音楽賞)ら、現在世界を舞台に活躍する若手ピアニストが出演し、ここからキャリアをスタートさせている。

ピティナ・ピアノコンペティション特級・G級 概要

就学前幼児からプロを目指す本格的な学習者まで、ソロ・デュオ・グランムーズの各部門に分かれて毎夏開催されているピティナ・ピアノコンペティション(2006年度の延べ参加者数は計38,045名/組)のうち、ソロ部門の最高クラスが、特級と、それに次ぐG級。

ともに、第1次予選、第2次予選、全国決勝大会の3段階により、G級はショパン:練習曲等を含む各スタイルのプログラム、特級は、ショパン及び近現代の作曲家による練習曲、ピアノ協奏曲(決勝)、邦人現代作品課題(決勝)などを含む各スタイルのプログラムで審査される。

2007年度(第31回)は、2006年12月1日に参加要項が発表され、特級の全国決勝大会では2006年度に続き、プロのオーケストラ伴奏が起用される。全国決勝大会は、G級が2007年8月25日(土)、特級が8月26日(日)、ともに第一生命ホールで開催される。

出演者プロフィールと演奏曲目



水谷 桃子 Momoko Mizutani (G級銀賞)

リスト: バガニーニによる大練習曲 S.141 (全6曲)

1991年生まれ。ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会において、C級ベスト賞及び審査員特別賞、E級金賞・聖徳大学川並賞・讀賣新聞社賞、G級銀賞・洗足学園前田賞・王子賞。2005年全日本学生音楽コンクール大阪大会第2位。2006年第11回浜松国際ピアノアカデミーに参加、同コンクールにて第4位入賞。同年、第4回東京音楽コンクールファイナリスト。2005年、大阪・いづみホールにて、大阪チェンバーオーケストラと共演。2006年10月、水戸・佐川文庫多目的ホールにて「水谷桃子ピアノリサイタル」を開催。

現在、神戸海星女子学院中学校3年。クラウディオ・ソアレス氏に師事。



鈴木 美祐 Miyu Suzuki (G級金賞)

フランク: 前奏曲、コラールとフーガ

1989年生まれ。ピティナ・ピアノコンペティションにて、2000年C級ベスト賞、2005年F級ベスト賞、2006年G級金賞、併せて審査員基金海外派遣費補助、東京都知事賞、讀賣新聞社賞、ヒノキ賞、洗足学園前田賞、王子賞受賞。鎌倉市小・中・高校生音楽コンクール

にて、2005年高校生の部第1位、鎌倉市教育委員会賞、野村光一賞を受賞。学園にて定期演奏会などに出演。2007年3月には、香港演芸学院内でコンサートを予定。

現在、北鎌倉女子学園高等学校2年。日比谷友妃子氏に師事。



恩田 佳奈 Kana Onda (特級銀賞)

D.スカルラッティ: ソナタ ト長調 K.201/L.129

J.S.バッハ = ブゾーニ編: シャコンヌ 二短調

(無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 BWV.1004 より)

4歳よりピアノを始める。

1998年 第14回JPTAピアノオーディション本選入賞・入賞者演奏会に出演。2000年 第9回日本クラシック音楽コンクール全国大会にて第2位(1位なし)。2004年 第9回JILA音楽コンクールピアノ部門にて第1位。第119回日演連推薦新人演奏会(広島)にて広島交響楽団と共演。2005年 東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。第7回さくらびあ新人コンクールにて大賞(第1位)受賞。第24回飯塚新人音楽コンクールピアノ部門にて大賞受賞、合わせて朝日新聞社賞・文部科学

大臣奨励賞・飯塚市長賞・飯塚文化連盟賞受賞。

2006年 第30回ピティナ・ピアノコンペティション特級にて銀賞受賞、合わせて王子賞・三菱鉛筆賞受賞。

瀨本恵康、関孝弘、青柳晋、ガブリエル・タッキーノの各氏に師事。現在、東京藝術大学大学院修士課程音楽研究科2年在学中。



前山 仁美 Hitomi Maeyama (特級グランプリ)

ハイドン: アンダンテと変奏曲 ヘ短調 Hob.XVII-6

ラフマニノフ: 楽興の時 Op.16

1987年3月22日生まれ。

1996年 ピティナ・ピアノコンペティションB級奨励賞。1998年 第15回教育連盟ピアノオーディションA部門入賞、同入賞者演奏会出演。2000年 ピティナ・ピアノコンペティションD級銅賞。2001年 第17回かながわ音楽コンクールユースピアノ部門中学生の部第1位、総合第2位、神奈川新聞社長賞受賞。トップコンサートにて神奈川フィルハーモニー管弦楽団と共演。2003年 第1回カワイ主催ロシアン・ピアニスクール in 東京受講、受講生選抜公開演奏会出演。2004年 第5回シヨパン国際ピアノコンクール in Asia、アジア大会奨励賞。第9回浜松国際ピアノアカデミー受講。ピティナ・ピアノコンペティ

ションG級金賞、併せて東京都知事賞、讀賣新聞社賞、ヒノキ賞、王子賞、洗足学園前田賞受賞。第2回カワイ主催ロシアン・ピアニスクール in 東京受講、受講生選抜公開演奏会出演。2005年 フランスのMoulin d'Andeにて行われたマスタークラス受講。アメリカにて行われたジーナ・バックアウワー国際ピアノコンペティション Young Artist 部門第6位。第3回カワイ主催ロシアン・ピアニスクール in 東京受講、受講生選抜公開演奏会出演。

2006年 ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞受賞。併せて文部科学大臣賞、讀賣新聞社賞、ミキモト賞、王子賞、三菱鉛筆賞受賞。同12月 ドイツ マンハイムにてオーケストラとモーツァルトのピアノ協奏曲を共演。2007年1月 水戸市佐川文庫ホールにて「前山仁美ピアノリサイタル」を行う。幼少の頃より現在に至るまで江口文子氏に師事。現在は、モスクワ音楽院にて、パーヴェル・ネルセシアン教授に師事。これまでに、佐藤俊、日比谷友妃子の各氏に師事。

<レポート 3> 『ピティナ東京室内楽研修会』 開催

主催：ピティナ東京本部



2月10日(土)、11日(日)、12日(月・祝)の3日にかけて、東京都狛江市のエプタ・ザール(ヒノキ新薬・ホール協賛)において、ピティナ東京室内楽研修会が開催され、約20名が参加した。/

野平一郎先生による、レクチャー1『室内楽の魅力』-これまでのコンサートで出会った魅力ある共演者との色々なエピソード-を皮切りに、実際にプロの演奏家と共演しながら研修を受けるというスタイルで、トリオ、デュオの研修会が行われた。

ヴァイオリンの清水 醒輝氏、チェロの篠崎由紀氏と共演しながら、多岐靖美先生や金子詩美先生からのコメントをえて、実地で学ぶ。

参加資格は、演奏研修生 = 1) 室内楽について研鑽を深めたい方 2) 既に演奏活動をしている若手ピアニストで室内楽について更に研鑽を深めたい方 指導研修生 = 1) 室内楽を学びたい、及び室内楽普及に取り組みたい指導者を対象としている。

ピティナ専務理事日記(ブログ)より転載:

ピティナ室内楽研修会は、2000年に始まって以来、ほぼ毎年見直しを図っています。主に子供を対象として巣鴨のサロンで始まり、次に施設の協力が得られたので山口県秋吉台で行った時期もありました。ここ数年、ヒノキ新薬のホール協賛を得て東京都狛江市で3日連続の研修会スタイルになっています。

実際にピアノを弾く演奏研修生は、主にピアノ指導者で、約20名が集まりました。ご自分の生徒に室内楽指導をするために、まずは、自らが学ぶ必要があるということです。

今年は、野平一郎先生をゲストにお迎えしてレクチャーして頂きました。

2007年2月10日(土)

【レクチャー1 / 野平】『室内楽の魅力』-これまでのコンサートで出会った魅力ある共演者との色々なエピソード-(予定)

【レクチャー2 / 清水・篠崎・金子・多喜】13:30 14:00『弦楽器とピアノ』-見比べ・弾き比べ・聞き比べ-

【トリオ1 / 清水・篠崎・多喜】ハイドン：ピアノ三重奏 第25番 ト長調 Hob. XV-25 第1楽章 第3楽章
角野隼斗(小5 委員会推薦 写真) 田中梨央(小6) 松尾奈津紀(大3)

【トリオ2 / 清水・篠崎・金子】ハイドン：ピアノ三重奏 第25番 ト長調 Hob. XV-25 第2楽章
小灘裕子 中村美穂 中山朋子

【デュオ1 / 清水・多喜】ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第2番 Op.100 第1楽章
庭野佐知子 三谷知子



2007年2月11日(日)

【レクチャー3 / 多喜】『室内楽導入のソロ演奏への効果』

【トリオ3 / 清水・篠崎・多喜】メンデルスゾーン：ピアノ三重奏 第1番 二短調 Op.49 第1楽章
泉ゆりの(委員会推薦 写真) 中村望 長谷川友紀

【トリオ4 / 清水・篠崎・金子】メンデルスゾーン：ピアノ三重奏 第1番 二短調 Op.49 第2楽章
永井響美子 中川さとみ

【デュオ2 / 篠崎・多喜】ブルッフ：コルニドライ Op.47
岡嶋拓也 吉田晴子

【デュオ3 / 清水・金子】ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第2番 Op.100 第1楽章
中村美雪 宮下朋子

【トリオ5 / 清水・篠崎・多喜】メンデルスゾーン：ピアノ三重奏 第1番 二短調 Op.49 第3楽章
森華耀子 山崎美鈴

【トリオ6 / 清水・篠崎・金子】メンデルスゾーン：ピアノ三重奏 第1番 二短調 Op.49 第4楽章
鈴木啓三 吉田真理



2007年2月12日(月・祝)

【トリオ7 / 清水・篠崎】ハイドン：ピアノ三重奏 第25番 ト長調 Hob. XV-25 第2楽章

メンデルスゾーン：ピアノ三重奏 第1番 二短調 Op.49 第1楽章 第2楽章

【デュオ4 / 清水】ブラームス：ヴァイオリンソナタ 第2番 Op.100 第1楽章

【デュオ5 / 篠崎】ブルッフ：コルニドライ Op.47

【トリオ8 / 清水・篠崎】メンデルスゾーン：ピアノ三重奏 第1番 二短調 Op.49 第3楽章 第4楽章

【修了コンサート】【修了式】